

東京計器株式会社

2020年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

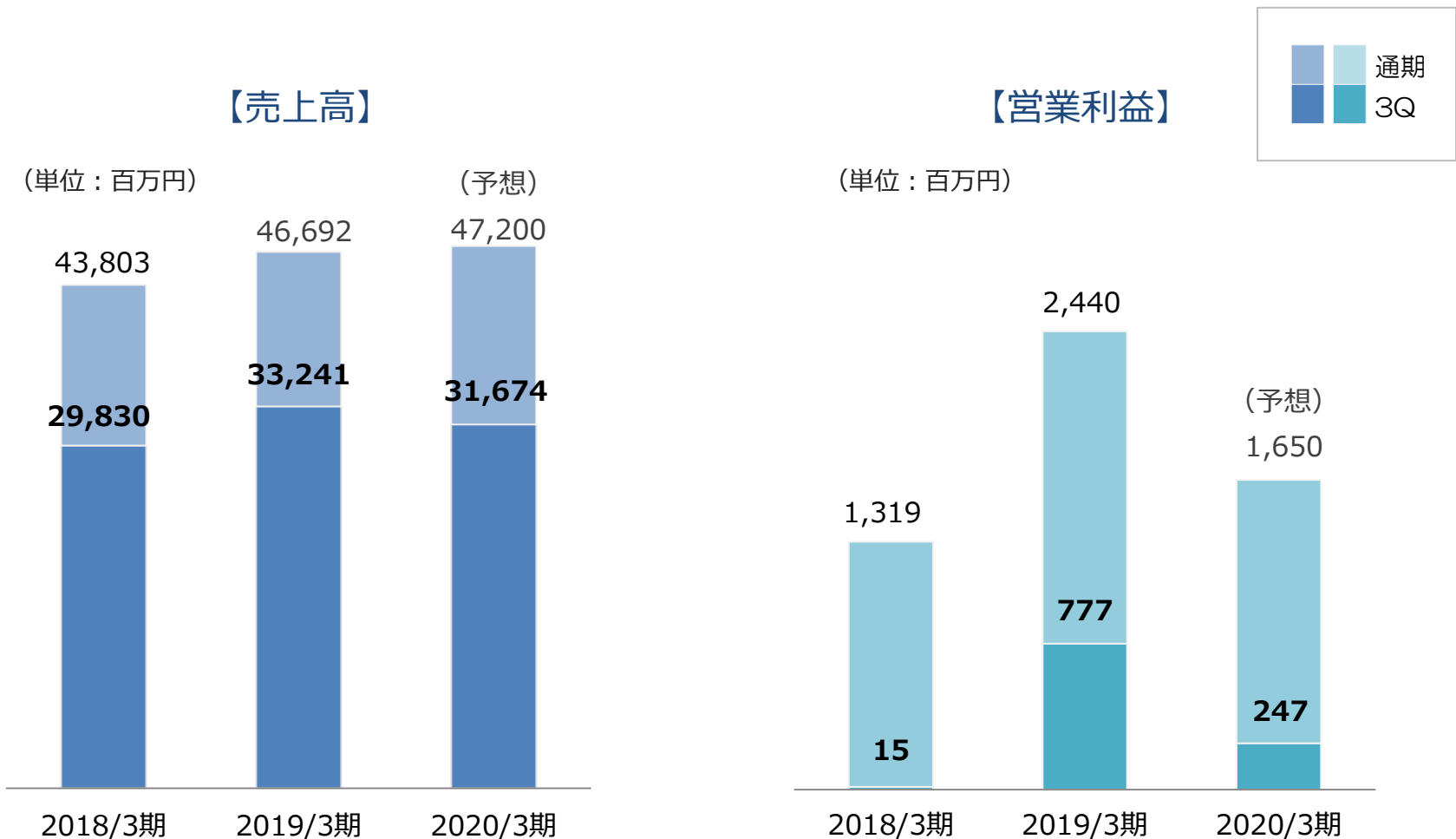
2020年2月12日（水）

本説明資料に記載された将来に係る事項は公表時点で入手可能な情報を踏まえて弊社経営陣が想定したものです。従って、今後の事業環境等により差異が生じることもありますので、ご承知おきください。

2020年3月期 第3四半期 決算サマリー

- ◆ 連結売上高は、前年同期比では船舶港湾機器事業が増収となったものの、油空圧機器事業、流体機器事業、防衛・通信機器事業が減収となったことから、全体として減収となった
- ◆ 通期連結売上高予想は、防衛・通信機器事業で計画外売上があるものの、油空圧機器事業及び流体機器事業で減収となる見込みであることから、前回の業績修正（2019年11月11日）に対して3.3%減収となる見込み
- ◆ 通期連結営業利益は、前回の業績修正に対して売上高の減少に伴い2.9%減益となる見込み

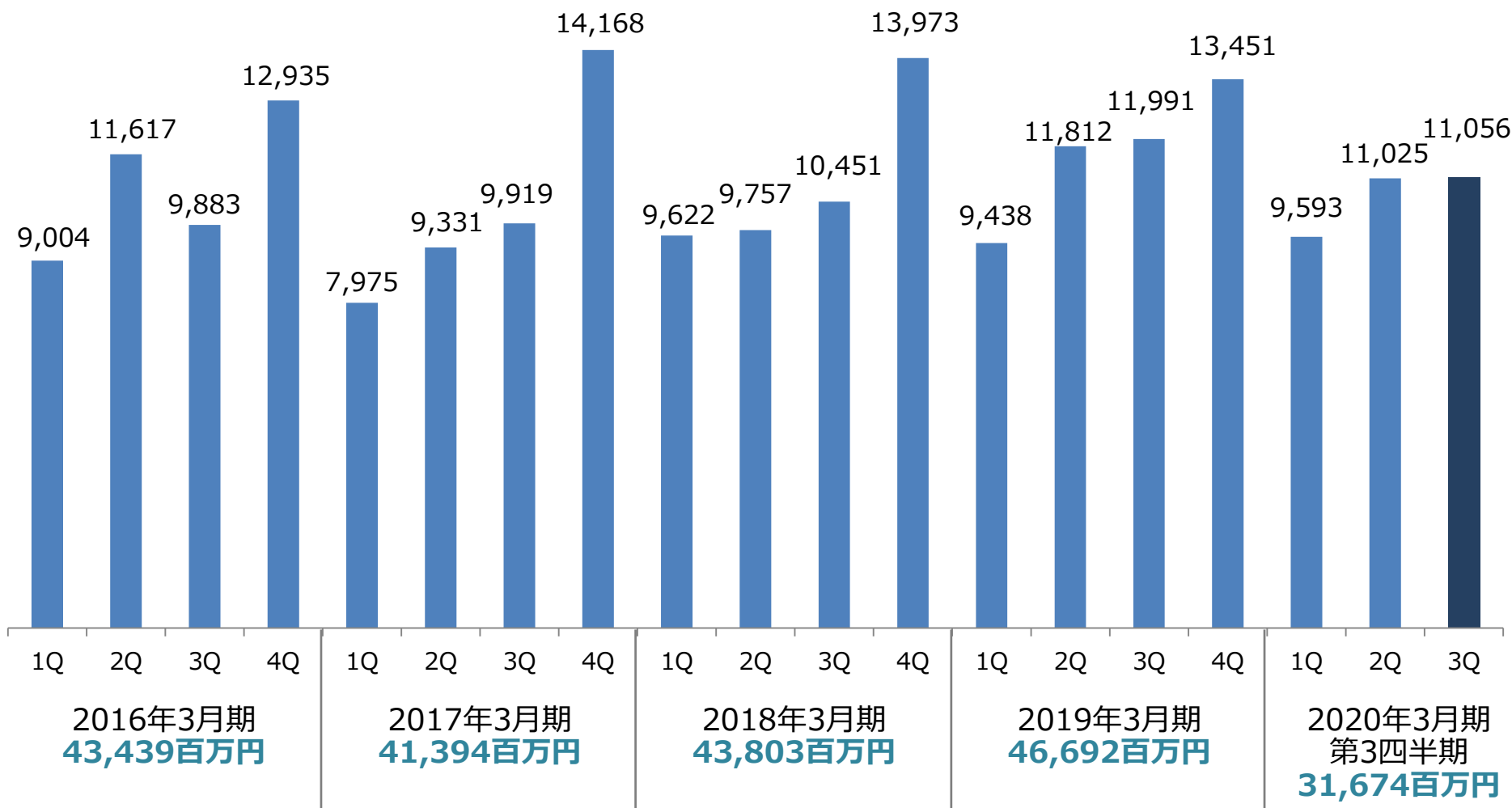
第3四半期 連結損益の推移



※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

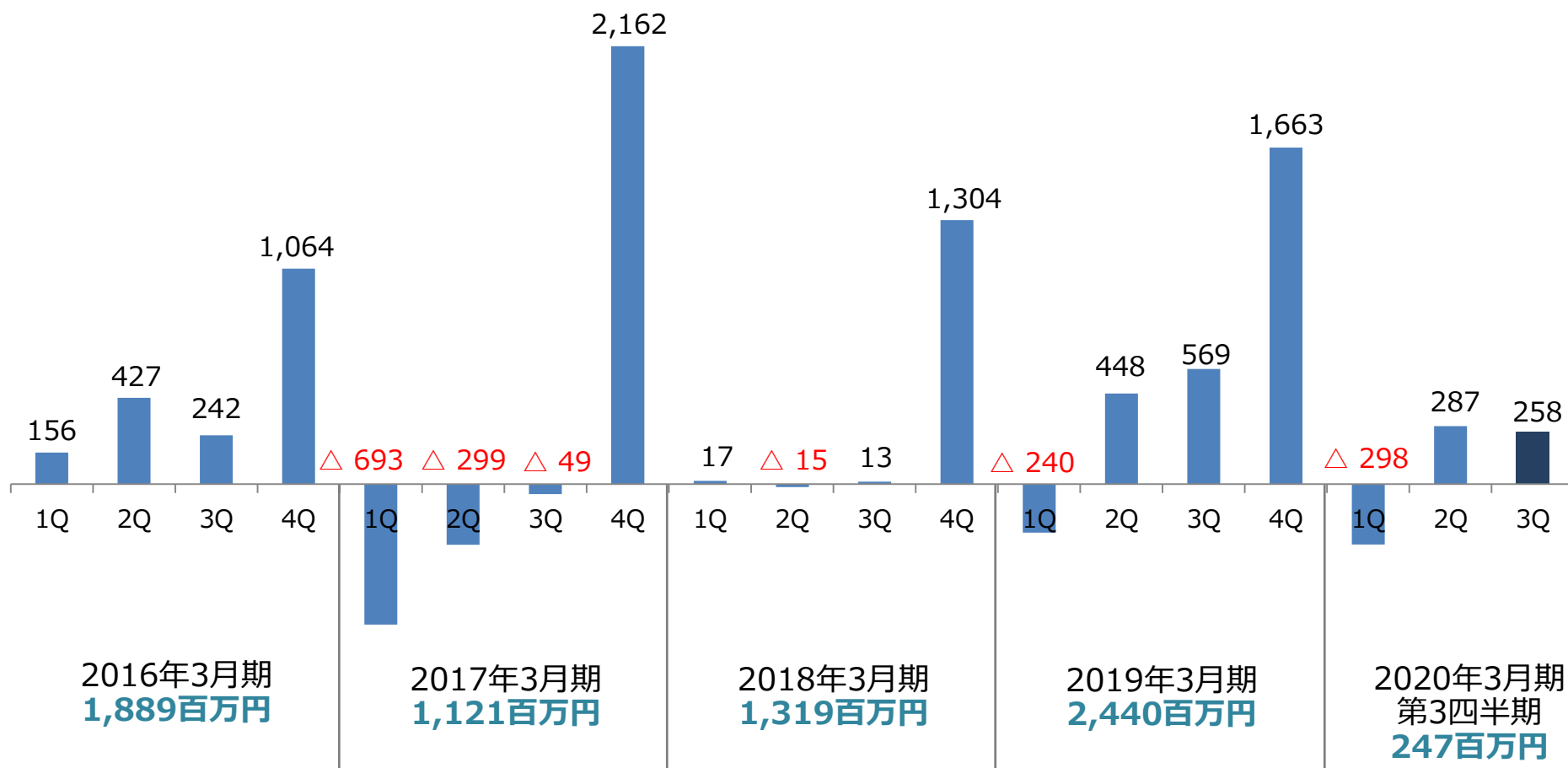
四半期 連結売上高推移

(単位：百万円)



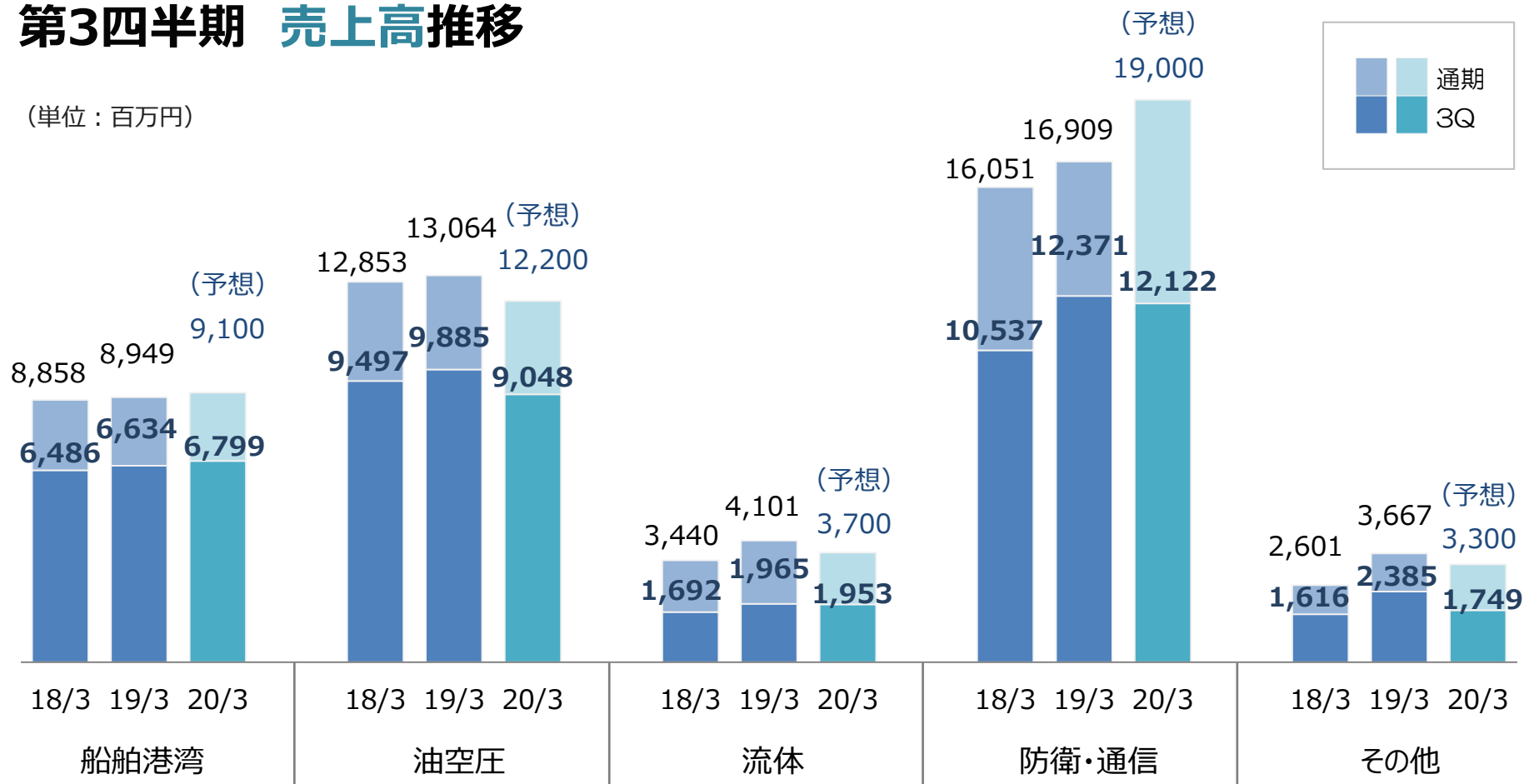
四半期 連結営業利益推移

(単位：百万円)



セグメント別 第3四半期 売上高推移

(単位：百万円)



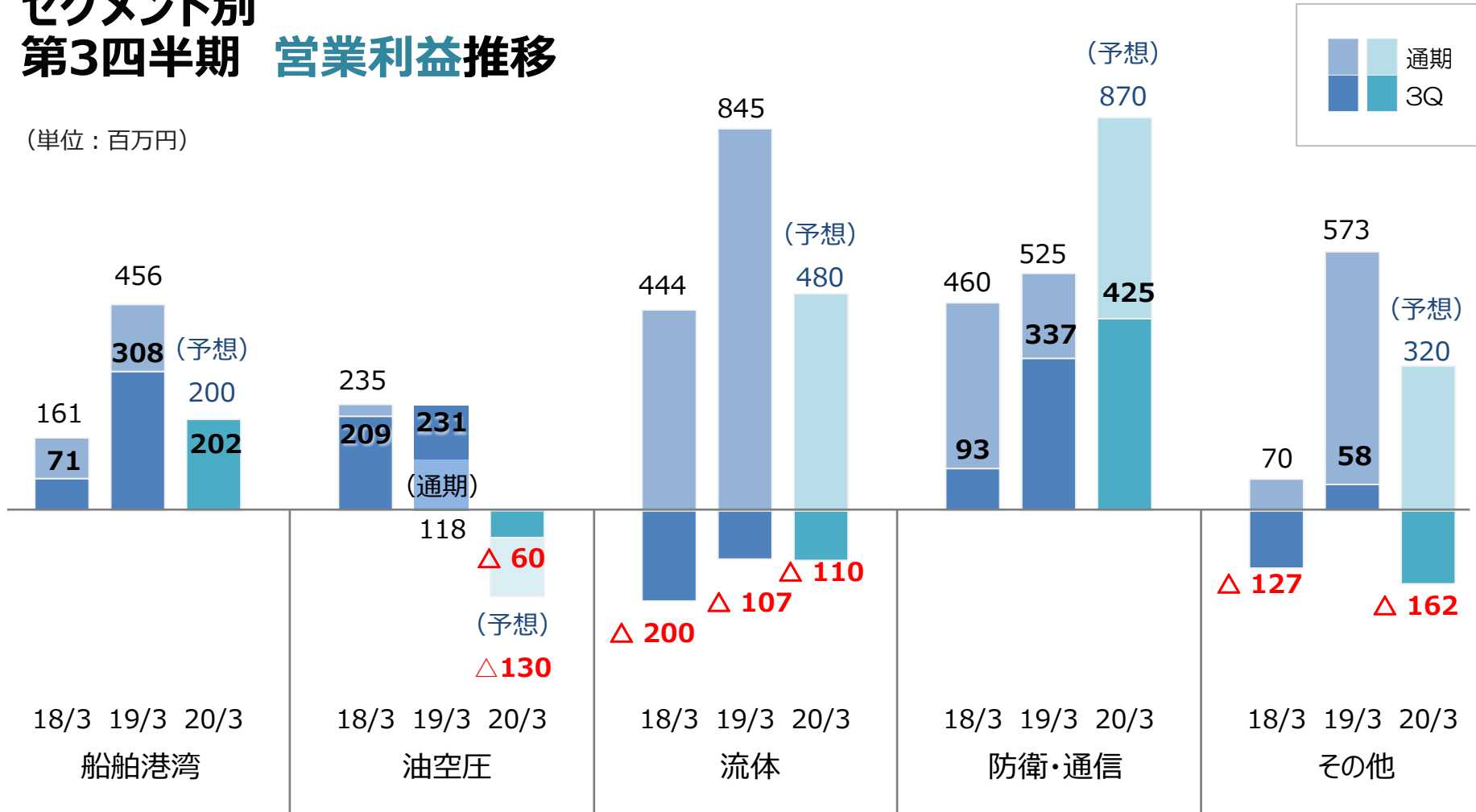
※数値は調整前売上高

※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

※2019年3月期より“防災機器事業”は“消火設備市場”として「その他の事業」から「流体機器事業」セグメントに移行しております。
上記の2018年3月期の売上高はセグメント組替え後のものとなっております。

セグメント別 第3四半期 営業利益推移

(単位：百万円)



※数値は調整前営業利益

※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

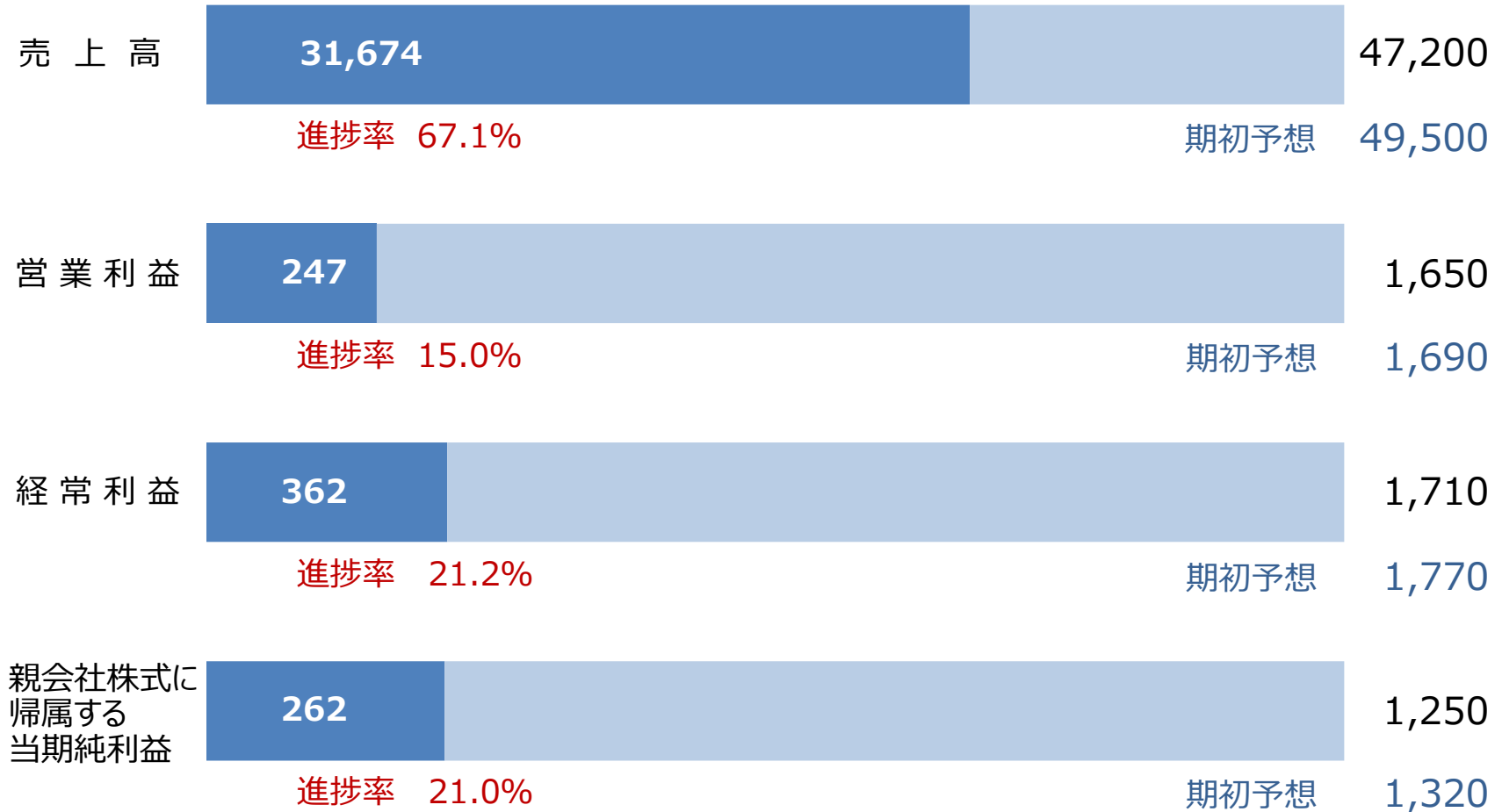
※2019年3月期より「防災機器事業」は「消火設備市場」として「その他の事業」から「流体機器事業」セグメントに移行しております。

上記の2018年3月期の営業利益はセグメント組替え後のものとなっております。

第3四半期の進捗状況

(単位：百万円)

通期業績予想

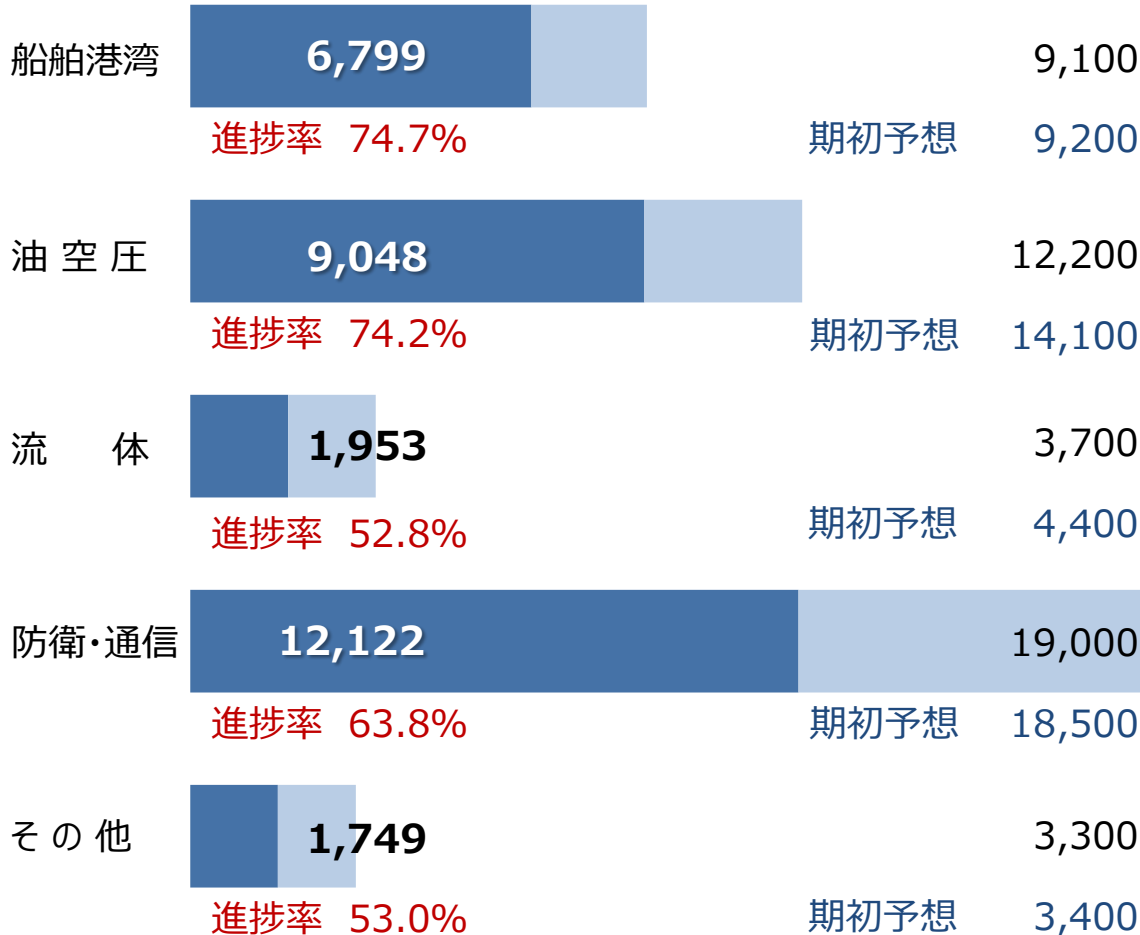


※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

セグメント別 売上高進捗状況

(単位：百万円)

通期業績予想



・通期予想は、各市場ともに依然として低迷しているものの、前期分の売上の納期ずれにより、前期に比べ増収の見込み

・通期予想は、プラスチック加工機械、工作機械、建設機械の各市場の需要減が響き、前期及び期初予想に比べ減収の見込み

・通期予想は、官需市場が危機管理型水位計の需要が一服したことなどの影響により、前期及び期初予想に比べ減収の見込み

・通期予想は、官需市場において数量増等の計画外売上があり、前期及び期初予想に比べ増収の見込み

・通期予想は、鉄道事業においてレール探傷車納入の端境期となることに加え、検査機器事業が新商品の需要増の一服から、前期及び期初予想に比べ減収の見込み

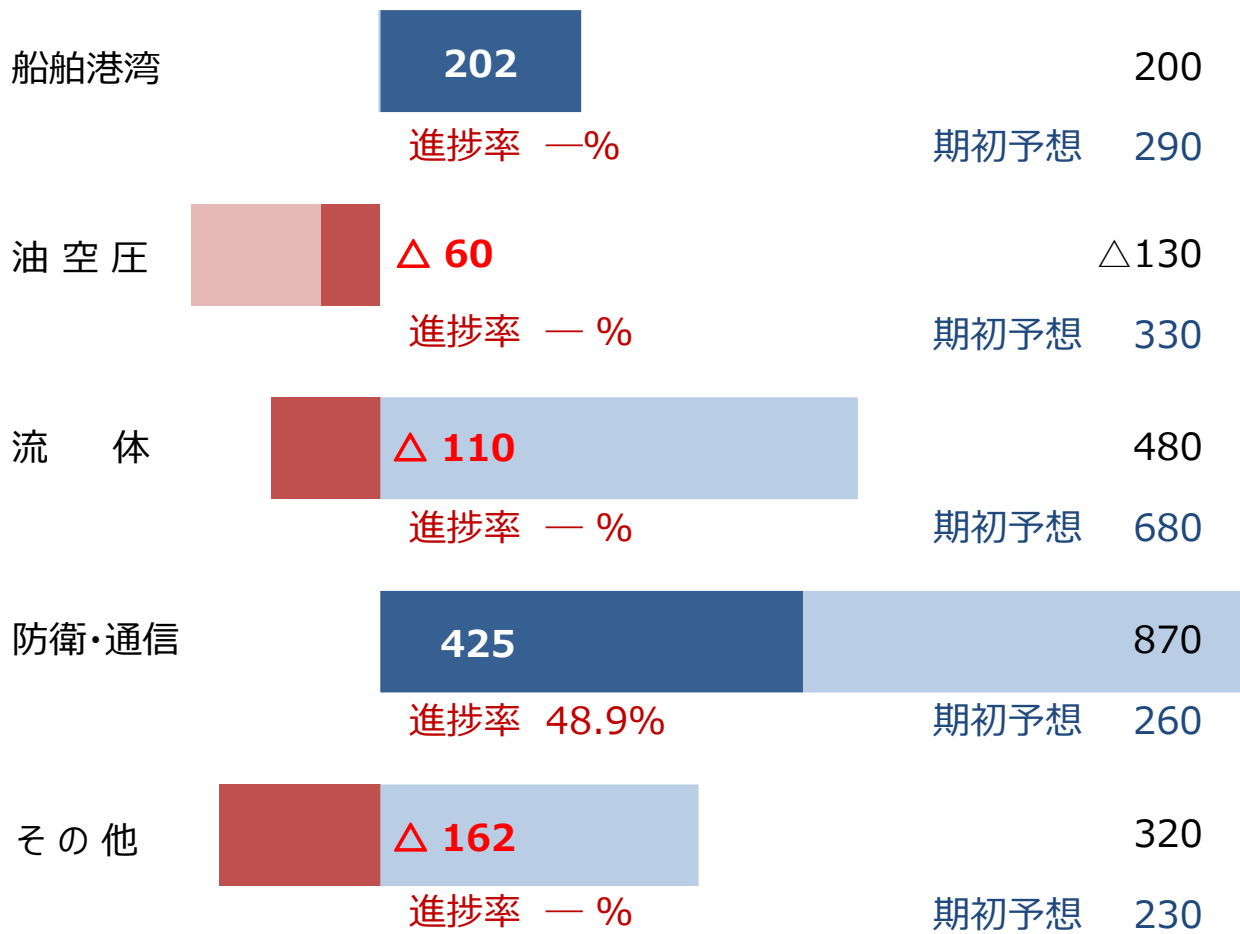
※数値は調整前売上高

※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

セグメント別 営業利益進捗状況

(単位：百万円)

通期業績予想



・通期予想は、前期及び期初予想に比べ為替が円高傾向で推移していることから、減益の見込み
(期初設定レート113円)

・通期予想は、前期及び期初予想に比べ売上高の減収が影響し、赤字となる見込み

・通期予想は、前期及び期初予想に比べ減収となることが影響し、減益の見込み

・通期予想は、前期及び期初予想に比べ増収となることに加え、製品ミックスの変化により原価率が改善することから、大幅な増益の見込み

・通期予想は、前期及び期初予想に比べ減収となることから、前期比で減益となる見込みであるものの、期初予想を上回る見込み

※数値は調整前営業利益

※2020年2月12日発表の「2020年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を修正いたしました。

4. 受注・受注残の状況

(単位:百万円)	2020年3月期3Q 受注高		2020年3月期3Q末 受注残高		
	金額	前年同期比	金額	前期末比	前年同期末比
船舶港湾	6,369	△10.9%	2,382	△15.3%	△26.6%
油空圧	8,728	△13.7%	2,951	△9.8%	△3.2%
流体	3,186	△0.5%	1,948	+172.5%	△0.2%
防衛・通信	9,325	△32.8%	18,063	△13.4%	△13.6%
報告セグメント合計	27,607	△19.6%	25,344	△8.4%	△13.0%
その他	2,502	+0.2%	1,286	+140.5%	+6.7%
調整額	3	—	0	—	—
合 計	30,112	△18.3%	26,631	△5.5%	△12.3%

- ◆ 船舶港湾機器事業は、新造船需要の減少による造船所の新規建造受注の進捗遅れにより、受注高、受注残高が減少
- ◆ 油空圧機器事業は、プラスチック加工機械、工作機械、建設機械の各市場の需要減で受注高が減少
- ◆ 防衛・通信機器事業は、レーダー警戒装置の量産受注が当期は無かったことなどから、受注高は前年同期比で大幅に減少、受注残高は量産納入が進んでいることから減少し始めているが、第4四半期の納入を控え依然高水準を維持

5. 連結貸借対照表（主要な勘定科目のみ）

（資産の部）

（負債・純資産の部）

（単位：百万円）	2019年 3月期	2020年3月期 第3四半期	増減額	（単位：百万円）	2019年 3月期	2020年3月期 第3四半期	増減額
流動資産	46,124	42,656	△3,468	流動負債	22,289	20,629	△1,660
現金預金	9,397	7,238	△2,158	支払手形・買掛金	7,027	6,216	△811
受取手形及び売掛金	13,723	12,772	△951	短期借入金	10,757	11,392	+635
電子記録債権	5,316	3,690	△1,626	賞与引当金	1,121	572	△549
棚卸資産	16,990	18,397	+1,407	固定負債	6,579	5,113	△1,465
未収入金	76	256	+181	長期借入金	4,954	3,583	△1,371
その他	624	303	△321	退職給付に係る負債	721	642	△79
固定資産	12,224	12,367	+143	負債合計	28,868	25,743	△3,125
有形固定資産	7,246	7,142	△104	株主資本	28,137	27,902	△235
無形固定資産	0	0	—	利益剰余金	21,528	21,379	△150
投資その他の資産	4,978	5,225	+246	純資産合計	29,481	29,280	△201
資産合計	58,349	55,023	△3,326	負債純資産合計	58,349	55,023	△3,326

- ◆ 棚卸資産は、第4四半期に納入が集中する流体機器事業及び大型案件の納入を控えている防衛・通信機器事業により、依然として高水準で推移
- ◆ 借入金は、長期借入金の返済により減少

株主還元の実策について

【基本的な考え】

財務基盤とのバランスを図りながら、安定的な株主還元を実施

過去5年間の配当金の推移と2020年3月期の予想

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
年間配当金 (円 銭) ※	4.50	5.00 (普4+記1)	4.00	20.00	25.00	25.00
配当性向 (連結) (%)	16.3	33.2	46.8	29.6	21.3	32.7
総還元性向 (連結) (%)	19.9	39.8	46.8	37.1	25.6	—

※2018年3月期以降については、株式併合後の配当額 (株式併合前相当の配当額は表示の1/5)

最近の自己株式の取得状況

	2014年5月	2015年5月	2015年11月	2017年11月	2019年2月	2019年11月
取得株式数 (株) ※	310,000	300,000	335,000	58,000	76,800	84,700
取得価額 (百万円)	84	84	84	85	85	85

※2017年11月実施分以降については株式併合後の株式数

TOKYO
KEIKI